

みたか環境ひろば 第42号

平成 25 年 1 月 1 日号



■よみがえれ!! 井の頭池! ~井の頭池のかいぼり~

大正6年に日本初の郊外型公園として開園した井の頭恩賜公園は、平成29年に100年を迎えます。この節目の100年に向け、地域と連携して井の頭公園のあり方を考え行動していこうと、三鷹市、武蔵野市をはじめとする行政、関係団体が参加して「井の頭恩賜公園100年実行委員会」を立ち上げ様々な活動をしています。

公園のシンボルである「井の頭池」は、現在神田川の源流として知られていますが、かつては豊かな湧水に恵まれ、ここを水源として江戸初期に神田上水が設けられ人々の飲み水として使われていました。現在は残念ながら枯渇し、ポンプでくみ上げて池に供給しています。池の水質も悪化して1年を通して濁った状態が続いています。

100年実行委員会では、「井の頭公園の池の生態系を回復し池の底が見えるようにする」ことを目標に、市民や地域団体、企業、大学などと連携して、井の頭池の水質浄化、外来生物の駆除、在来生物の保護に取り組んできました。そして、これから新たに実施する取組として「かいぼり」があります。「かいぼり」とは農作業が終わる冬に、ため池から水を抜いて1ヶ月ほど天日に干し、底に溜まった土砂を取り除いたり、堤防や水路の点検修理を行うなど、かつてはため池を維持するために欠かすことのできない作業でした。現在は、外来生物の駆除や水質改善を目的として各地で「かいぼり」が行われています。昨年2月には「かいぼりシンポジウム」を開催し、沢山の方に参加していただいて水質浄化、外来生物駆除、水環境について考えました。来年度、この「かいぼり」を井の頭池でも実施し、外来生物を駆除するとともに、水草等の植栽も行いたいと考えています。現在、どうすれば「かいぼり」を効果的に実施することができるか検討を進めているところです。かいぼりも市民・地域の皆さんと一緒にやりたいと思っています。

井の頭恩賜公園100年実行委員会 水と緑部会 市川雅代

よみがえれ!! 井の頭池!

かいぼり

かつて農作業が終わる冬にため池から水を抜き、1か月ほど干して、清掃や堤防や水路の点検修理を行っていました。これを「かいぼり」と呼び、ため池を維持するために欠かすことのできない年中行事でした。現在では、池の水質改善や外来生物の駆除を目的とした「かいぼり」が行われています。井の頭池では 2013 年からかいぼりを行い、外来生物の駆除、在来生物の保護、池底の掃除、池底の天日干し、水草の植えつけなどを行います。



▲池底の天日干し

写真引用：「埼玉県立大宮公園ボート池のかいぼりについて」埼玉県大宮公園事務所



■グリーンカーテン



省エネが叫ばれている今日、日よけには、すだれ、よしず使用がされ夏の風物詩として親しまれています。

それに加え、グリーンカーテンとしてゴーヤや朝顔などの植物が、庭やベランダに見られます。

すだれやよしずは日差しを遮りますが、グリーンカーテンは、それだけでなく、生きた植物なので持っている水分や植物独特のものを発散し、暑さを和らげるのではないかと私は考えます、林や森に入ると涼しさを感じるのと同じように。

植物を育てるのは不得意な私ですが、庭にプランターを置きゴーヤを植えて今年で3年になります。

そのきっかけは、一昨年市役所のロビーでゴーヤの苗を配っているのに出会い、2本頂いたのが始まりです。今年で3年目になりますが、窓から入る日差しを遮り涼しいうえ、目も楽に感じます。さらに実がなり、食べられ、いいことづくめのグリーンカーテンです。

朝夕の水やりだけで、他に何も手をかけていません、それでも青々と葉が茂り、窓を覆っています。来年もぜひ植えたいと思っています。(森)

■日本でも数例の国立天文台構内古墳

古墳人気が高まっています。

1. 福岡市元岡古墳で西暦570年1月6日の日付が刻まれた鉄製太刀を発見。
2. 桜井市箸墓古墳で後円部頂上部分が全面に石を厚く積んだ特異な構造であることが判明。
3. 新潟県胎内市城の山古墳で大和政権の古墳から出土した同一の副葬品を発見し、大和政権の日本海側北限に認定。
4. 本庄市前の山古墳の笑う埴輪3体がパリの「日本美術が笑う」展に出品。
5. 大英博物館ガウランドコレクションに膨大な古墳のコレクションを発見。日英の合同チームは同コレクションの本格調査を開始 等。



古墳は一般的に3世紀後半から大型前方後円墳の造営が広まり、7世紀に終わっています。歴史上の人物では卑弥呼から聖徳太子の時代です。三鷹市にも一か所、天文台構内古墳があり、全国でも数例しかない上円下方墳です。上は丸く下は四角形で、一辺25～31mの方墳の上に直径18.6mの円形の墳丘が載っています。同古墳は第一赤道儀室(天文台の最古の建物)の南側に位置し、小高い丘に見えます。三鷹市教育委員会発行の「天文台構内古墳」のパンフレットに発掘調査結果などの写真を取り入れ、わかりやすく説明しています。同古墳は畿内の古墳と特徴は一致しており、大和政権に緊密と予想されます。また、多摩川利用による水運と東山道武蔵路における陸運の接点に位置し、その当時の流通の拠点でした。国立天文台の構内の広さに驚き、道路も見学コースを限定し植生保全に取り組んでいる姿勢は称賛されます。(中野)

■三鷹の道 調布保谷線

三鷹市の連雀通り井口1丁目に、塚交差点があります。写真1は、昭和45年頃で、塚だんご屋さんがあったのも昔になりました。

調布保谷(西東京市)線は、沿道の生活環境を保全するため、車道の10m部分を植樹帯、自転車・歩行者道、副道等の組み合わせによる、環境施設帯として整備され、季節ごとの花の咲く木を植えてあります。

塚交差点は、10月17日より、一方通行から相互通行になりました。相互通行になり道路がより整備されたことにより、便利になった上に歩行者も安全に通行できるようになり、より安全な環境で住みやすい街となりました。(小林)



←写真1
昭和45年ごろの
塚交差点
(出展:写真集
みたかの昔)

写真→
現在の塚交差点



環境掲示板

「Tシャツからルームシューズ」作り

主催：三鷹市
日時：1月24日(木曜日) 午後1時～3時半
場所：三鷹市リサイクル市民工房
対象：特になし
定員：8人(申込多数の場合は抽選)
料金：無料
申込先：往復はがきで1月15日必着で
申し込む
問合せ：ごみ対策課(内線2534)

「紙バンドのハート型かご」作り

主催：三鷹市
日時：1月30日(水曜日) 午後1時～3時半
場所：三鷹市リサイクル市民工房
対象：特になし
定員：8人(申込多数の場合は抽選)
料金：無料
申込先：往復はがきで1月18日必着で
申し込む
問合せ：ごみ対策課(内線2534)

省エネルギー講座

主催：三鷹市、三鷹ネットワーク大学
日時：2月19日(火曜日)
午後6時半から(予定)
場所：三鷹ネットワーク大学
対象：事業者、市民
定員：50人
料金：無料
申込先：広報みたか1月第3週号でご案内
問合せ：環境政策課(内線2524)

編集後記

Gゼロといわれるリーダー無き時代に環境問題も世界中で取沙汰され、その政策も多様化していく中、何かを指標にするとすれば、目的別にお天気や気温、風向き、潮の満ち引きや月の満ち欠け等自然の摂理を鑑みて、新旧陰陽調和を図った上で行動すると、意外に良い結果が得られるかもしれませんね。(入江)

次回は平成25年4月1日発行です

発行：みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境政策課

電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。